

## 鹿児島の動物⑫ トゲネズミ (ネズミ科)

脊椎動物担当 中間 弘

トゲネズミは、奄美大島と徳之島、沖縄本島に生息する琉球列島固有種で、頭胴長(胴体の長さ)12~17cm, 尾長10~12cm, 体重100gほどです。背面は黒とオレンジ色を帯びた全体に黄褐色で、腹面はやや淡い灰白色の荒目の毛で覆われています。シダや下草の茂った森に生息し、夜間、主に果実類や昆虫類を食べます。



毛はふつうの固さで1cmほどのものと、2cmほどの針状のものがあって、触ると棘のように感じることから「トゲネズミ」の名がつけました。

また、ハブから身を守る行動としての、垂直方向への突然のジャンプが特徴的です。

平成20年3月3日に、沖縄で50年ぶりに生きたトゲネズミが捕獲されたことが大きく報道されましたが、それほどに数が激減している動物でもあります。原因は、生息に適した環境の減少と、マングースやノイヌ、ノネコによる捕食が主であると考えられます。現在は、国の天然記念物に指定されて保護されています。

これまで、沖縄の個体群はオキナワトゲネズミ、奄美大島・徳之島の個体群はアマミトゲネズミとして分類されてきましたが、近年の研究で徳之島の個体群は染色体数が異なることが判明しました。奄美大島のトゲネズミは染色体数(2n)が25本、徳之島産は45本、沖縄産は44本で、それぞれが別種であることが判ってきました。これによって、徳之島の個体群は「トクノシマトゲネズミ」とすることになりました。

## 鹿児島の昆虫⑮ 迷チョウをさがそう

昆虫担当 中峯 浩司

秋は迷チョウがよく採集される季節です。迷チョウとは、国内外を問わず他の地域から飛来した非土着のチョウ類のことを言います。飛来地で世代をくり返すこともあります。冬を越すことはできません。台風や季節風によって運ばれ、春早くから見つかることもあります。また、南方からだけでなく、アジア大陸からやってくるものもいます。今年の迷チョウ情報をお知らせします。

## 今年県本土で見つかった迷チョウ(一部)

クマタラサキマダラ (台湾以南) 昨年引き続き

飛来・発生し、県下一円に広がっています。

ヤヤマラサキ (台湾以南) 8月下旬~9月上旬に開聞岳山麓で3頭採集されています。

リュウキュウムラサキ (台湾以南) 毎年やってくる迷チョウで複数採集されています。

メアカムラサキ (八重山諸島以南) 毎年見つかる迷チョウです。魚見岳で目撃されています。

オクテハモドキ (八重山諸島以南) 串木野で採集

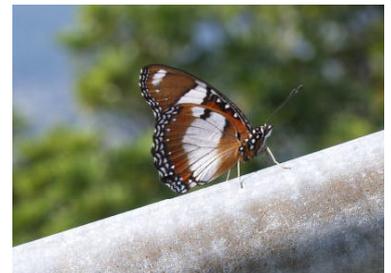
されています。稲刈りの終わった田んぼがねらい目!

ツムラサキマダラ (奄美諸島以南) 8月下旬に大野岳で採集されています。

ウキシロチョウ (奄美諸島以南) 毎年各地で見つかっています。南薩で発生したものが分散か?

## 迷チョウの採集ポイント

薩摩半島南部の大野岳、鷲尾岳、魚見岳などの山頂では、リュウキュウムラサキやメアカムラサキなど、オスが山頂占有性をもつ迷チョウがよく見つかります。また、開聞岳山麓



~フラワーパークメアカムラサキ 魚見岳山頂クかごしま~竹山周辺は花が多く、チョウが羽を休める良い場所がたくさんあります。